

社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし
仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業

3 学年 2 組 社会科学習指導案

指導者 川畑 研
場 所 3 の 2 教室

1 社会に参画していこうとする子の育成

私たちが生きている現代には、解決しなければならない問題が山積している。原油の枯渇、大気汚染、ゴミ問題などの環境問題。領土問題、歴史認識、食糧危機、それらに関わる国際紛争……。数えればきりが無い。このような激動の時代を、子どもたちは生き抜いていかなければならないのである。子どもたちには、未来を生き抜くために、自分が社会を作っている一人なのだという社会の形成者としての自覚をもち、地球に存在する全ての人間と手を取り合っ問題て解決していこうとする資質が求められているのである。これこそが、社会に参画していこうとする姿といえる。

社会に参画する資質を備えるために必要な能力として、「社会事象を積極的にとらえようとする意欲と行動力」「社会事象を観察する力」「社会事象がもっている意味や問題について考える力」「社会に向けて働きかけようとする態度」などが考えられる。これらの能力は、相互作用で育っていったり、段階を追って育っていったりすると考えられる。

小学校3年生は、社会科始まりの年である。この時期の社会科が社会に参画しようとする子の育成に寄与することは、「自分の身近な社会の事象を意欲的に調べようとする気持ちや態度」の芽生えを促すことであると考えている。この気持ちや態度の芽生えを促すためには、「社会事象の観察技能が育つこと」「社会事象がもつ意味について考え、分かること」「分かったことを伝える喜びを味わうこと」などの技能習得や経験を通すことが必要となってくる。

2 単元名

商店の仕事 ～めざせ！せんにゆうたんてい お店のひみつをちょうさせよ～

3 単元目標

- (1) おうちの人や地域の人々の買い物の様子や、お店の様子やお店で働く人々の仕事について関心をもち、意欲的に調べようとする。【社会的事象への関心・意欲・態度】
- (2) おうちの人や地域の人々の買い物の工夫や、お店で働く人々の仕事の工夫について予想や学習問題を考えたり、お店がなぜ工夫をしているのかについて考えることができる。【社会的な思考・判断・表現】
- (3) おうちの人や地域の人々の買い物の様子や、お店の様子やお店で働く人々の仕事について、聞き取り調査やお店の見学などを行い、調べた情報をグラフ、写真、絵、文章など使ってまとめることができる。【観察・資料活用の技能】
- (4) 地域には販売に関する仕事があり、自分たちの生活や自分たち以外の地域と関わっていることを理解できる。【社会的事象の知識・理解】

4 単元について

(1) 児童観

3年生になって初めて社会科という教科に出会った子どもたち。社会は楽しいという子どもたちが多い。5月には、町たんけんに行き、自分たちの住んでいる町の中でも行ったことのない場所などを発見することができ、見学する活動に楽しさを感じている。また、調べたことを地図にまとめた後、「もし新しい公園を作るなら、自分たちの町のどこに作ればいいのか」という課題に対して、地図を真剣にながめながら考えていた。「田んぼの近くがいい。おたまじゃくしを捕まえられる公園になる」というほほえましい意見や、「家がたくさんある場所がいい。子どもがたくさんいるから、近くて来やすい。大人もたくさんいるから、不審者

が公園に来てもすぐに逃げられる」など、生活経験から深く考えることができていたように思う。

3年生は、販売に携わる人々の仕事を学習することになっている。見学が中心の教材であり、見学好きの子どもたちにはぴったりの学習である。さらに、学習の際に何とか子どもの生活経験を生かすことができないだろうかと考え、アンケートを取ったところ、以下のことが分かった。

① おうちの人は、アオキスーパーに買い物に行くことがありますか？

ある（26人） ない（3人）

② おうちの人の買い物についていきますか？

よくついていく（18人） ときどきついていく（9人） ついていかない（3人）

③ どうして買い物についていくのですか？

- ・おかしや好きな食べ物などを買ってもらえる。いっしょに行くと夕飯を選べる。
- ・楽しいから。 ・いろいろ何があるのか見たいから。
- ・荷物をもってあげるため。 ・私がいないと、お母さんが私の食べたい物が分からないから。
- ・算数の勉強の練習ができるから。 ・社会人になったときに困る ・やることがなくてひまだから。
- ・家にいるときびしい。 ・「行く？」と聞かれるから。 ・友達と会えるかもしれないから。

子どもたちはおうちの人の買い物について行く子が多いことが分かった。ついていく理由については様々だが、日ごろからお店に出入りすることに慣れており、お店に出かけて一人調べをすることが可能な家庭環境が整っているように考えられる。「先生、この前お店にお出かけしたら、こんなことが分かったよ」と、報告してくるような子が一人でも多く育ってほしいと願っている。

また、子どもたちは、「逃走中」というテレビ番組が大好きであり、毎週水曜日の遊びタイムでは、クラス全員で逃走中ゲームをして遊ぶことが多い。そのゲームの重要なポイントが「ミッション」である。ゲームをクリアするために必要なイベント「ミッション」をクリアすることに、子どもたちは喜びを感じながら遊んでいる。そこで、本単元は見習いの潜入探偵が一人前になるための技を習得する場を「ミッション」とし、ミッションをクリアしながら成長していくというストーリー仕立ての単元を組み、見学や聞き取り調査の技、思考する技を楽しみながら習得できるようにし、一人前の潜入探偵になるのだという単元を貫く目標をもたせて、追究意欲を持続させたい。

(2) 教材にかける教師の願い

私の願いは、子どもたちが社会という教科を「好き」「楽しい」と思ってくれることである。社会を「好き」「楽しい」と感じる要因にはいろいろあるが、本単元では、「自ら調べる楽しさ」「考えて分かることの楽しさ」「伝えることのうれしさ」を感じてほしいと思っている。

本単元「商店の仕事」は、見学を中心として学習活動を進める。副題の「めざせ！せんにゅうたんてい」は、自ら意欲的に見学や聞き取り調査をして調べる子に育ってほしいという教師の願い、そして目指す子ども像を表している。そのため、本単元では見学や聞き取り調査をする場面を意図的にたくさん設け、社会的事象の観察技能の定着を図り、相互作用的に観察しようとする意欲も培っていききたい。また、「ミッション」を通して、子どもたちが観察の技能を身に付けたことを実感できるようにも工夫していきたい。

(3) 本時の指導

アピタは食品、装飾品、生活雑貨など商品が豊富にあり、店内や駐車場も広く、お祭りもある。子どもたちにとって、アピタは何でもそろう、文字通りの「スーパー」マーケットだという思いがあった。一方アオキスーパーは、食品だけに特化しており、店内や駐車場もアピタに比べて小さい。また、アオキで売っている物は、だいたいアピタでも買うことができる。そこで、「アピタで何でもそろうのであれば、アオキスーパーは必要ないのではないか」と教師からゆさぶりをかけた。子どもたちは、「困る人たちがいるから、なくなったらだめだ。アオキがつぶれたらいけない。」という思いから、アオキスーパーにお客

さんが来る理由について調査しようという単元を貫く課題を設定することができた。本時は、その答えに辿り着く時間として位置付けている。アピタにはない、アオキスーパー独自の魅力とは何なのかを考えさせるため、アオキスーパーの工夫についてランキングを行う。ランキングを行うことで、子どもたちは見学して調べたことや生活経験などから、アオキスーパーの工夫の意味について考えを話し出すであろう。順位を決める話し合いを通して、お互いの考えを聞き合い、アオキスーパーの魅力についての考えがさらに広がっていくことを本時ではねらいたい。

5 単元構想図（19時間完了） ※別紙参照

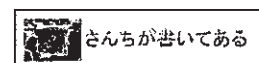
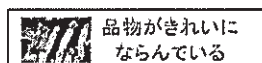
6 本時の指導（16／19時間）

（1）目標

アオキスーパーがお客さんを集めることができる理由について、「安全」「値段」「商品」「利便性」「衛生面」から考えることができる。【社会的な思考・判断・表現】

（2）準備

児童：発見カード、探検バッグ、たんでいてちょう



教師：「安全」「ねだん」「商品」「便利・気づかい」「きれい・かいてき」をまとめた模造紙、模造紙をかける衝立、カラーコーン（仕切り）、ワークシート

（3）指導過程

| 時間 | 学 習 活 動 | 教師の支援（・）と評価（○） |
|---|--|---|
| 15 | <p>1 お客さんを集めるためにアオキスーパーが1番大切にしていると思うものを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発見カードを用いて、発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・カートがあること。お年寄りが荷物をもつときに、すごく楽だと思う。 ・店員さんが親切なこと。アオキの店員さんが親切だから来ている人もいるから。 ・1階立て。1階しかないから、品物を見つけやすい。 </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・「安全」「ねだん」「商品」「便利・気づかい」「きれい・かいてき」の項目ごとに発見カードをはる。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>「安全」「ねだん」「商品」「べんり・気づかい」「きれい・かいてき」 この中でお客さんを1番集められるアオキの工夫のランキングを決めよう</p> </div> | | |
| 25 | <p>2 お客さんを集められる工夫はどれか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が1位だと思ふ模造紙の場所へ移動する。 1位だと思ふ理由を発表する。 考えが変わった時は、理由を言ってから移動する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腐ったものを出してしまうと、お客さんがおなかが痛くなる。魚にラップをしたり、冷蔵庫で冷やしたりアルコール消毒が大事。 </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・カラーコーンを用いて、場所を仕切る。 ・話し合いが滞ったときは、見学の資料や、アピタと比較して考えさせるなど、子どもの思考の流れに沿った資料提示や声かけを行う。 <p>【安全の資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アピタでも魚にラップをしたり、冷蔵庫で冷やしたりしている写真を用意しておき、必要に応じてアオキだけではなくアピタもしていることに気付かせる。 |

| | | |
|--|--|--|
| <p>5 3 感想を書く</p> <p>・ワークシートに、自分の考えを書く。</p> | <p>【ねだん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんは、アオキが安いから来ていると言っていたし、店長さんも他店と比べて値段を決めていると言っていた。安くないとお客さんが来ないし、店長さんも安さにこだわっている。 | <p>【ねだんの資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学したときに、お客さんがアオキを選んでいる理由のグラフを提示し、多くのお客さんが安さにこだわっていることに気付かせる。 |
| | <p>【商品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の置き方は、大きく変わらない。変わってしまうと、お客さんが探しにくくなってしまう。 | <p>【商品の資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アピタとアオキスーパーの商品の置き方の配置図を用意し、アピタも青木も置き方の工夫をしていることに気付かせる。 |
| <p>【べんり・気づかい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物が小さいこと。1階だてだから、お年寄りや障害者がたくさん動かずに済む。 ・お客さんがレジを早く済ませたいって言うから、レジが7台あるといいと思う。 ・お店が家から近いから、来ると思う。 | <p>【べんり・気づかいの資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アオキスーパーとアピタの食品売り場の平面図を用意し、広さの違いに気付かせる。 ・見学の時に、アオキスーパーにお客さんがどこから来ているのか調査した結果の地図を示し、お店の近隣から来ている人が多いことに気付かせる。 | |
| <p>【きれい・かいてき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうじをしてきれいにしている。きれいなお店じゃないと、人气が落ちる。 ・品物が種類ごとに分けていないと、お客さんがさがしにくいし、きたない店だと思われてお客さんが来なくなってしまう。 | <p>【きれい・かいてきの声かけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アピタは、そうじをしていないのかと声かけし、アピタも掃除はしていることに気付かせる。 ・アピタに行った経験を思い出させ、アピタも種類ごとに品物が並んでいることに気付かせる。 <p>○アオキスーパーがお客さんを集めることができる理由について、「安全」「値段」「商品」「利便性」「衛生面」から考えることができたか、話し合いの様子や感想から評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> | |

(4) 評価

アオキスーパーがお客さんを集めることができる理由について、「安全」「値段」「商品」「利便性」「衛生面」から考えることができたか、話し合いの様子と感想から評価する。【社会的な思考・判断・表現】

高評